



ワークショップについての説明



イタリアでは、人の尊厳を守るために、1978年に精神科病院を廃止しました。それ以降、どんな危機的状況であっても、支援者は当事者にとって嫌なことはせず、当事者が望むことをして支え、信頼関係に基づくメンタルヘルスケアを実現してきました。

この実践は、地域精神保健のグッドプラクティスとしてWHO(世界保健機関)から高く評価されています。現在はイギリスでも導入する動きが高まっており、精神保健福祉法にあたるMental Health Actは、2025年に主体性と人権を重視する大幅な改正がなされました。

今回は、イタリア・トリエステの元メンタルヘルスセンター長であり、世界中で強制医療に代わる地域密着型サービスの発展を支援してきたロベルト・メッツィーナ医師の来日が、工藤由佳医師との友情により実現します。WHOとトリエステでの経験により、危機的状況を乗り越えるのに強制は必要ないと確信するメッツィーナさんの主張は、日本の先駆者が今まさに聞くべき話です。

メッツィーナさんには、危機的状況においても強制のないメンタルヘルスケアをどのように実現しているか、具体的で実践的な講演をしてもらいます。そして、イタリアで精神科病院を廃絶した背景を、イタリア精神医療に造詣が深い文化人類学者である松嶋健さんに解説してもらいます。そして、日本での実践例をいくつか提示し検討します。最終的には、危機的状況における強制のないメンタルヘルスケアの本質とは何かをグループでじっくりと話し合い、メッツィーナさんの意見を聞きながら、参加者の共通理解を見出します。

今回のワークショップは、強制のないケアは理想であり現実的でないと思う方や、まだ日本では機が熟していないと思う方向けではありません。強制のないケアを本気で身につけたい方、ぜひともご参加ください。

講師・主催者紹介



ロベルト・メッツィーナ (元トリエステ・メンタルヘルスセンター長)

精神科医師、精神保健国際協働ネットワーク代表、世界精神保健連盟ヨーロッパ副代表、元トリエステ精神保健局長。南イタリア・バーリ大学を卒業し、1978年にフランコ・バザーリアのトリエステ・サンジョヴァンニ病院に赴任。同病院の脱施設化、病院に代わるコミュニティ・サービスの発展に尽力。2014年春、トリエステ精神保健局長に就任。バザーリアの「思想と実践」を引き継ぐ。2009年秋からWHO調査研修協働センター長として、世界中の「精神病院の脱施設化」、「精神病院に代わる地域密着型サービスの発展」を支援。これまでにイギリス、デンマーク、チェコ共和国、オーストラリア、ニュージーランド、ブラジル等の多数の国の精神保健改革をサポート。



松嶋健 (広島大学 大学院教授)

広島大学大学院人間社会科学研究科教授。主な著作に、『Psycho Nautica イタリア精神医療の人類学』世界思想社 2014年ほか。



工藤由佳 (精神科医師)

慶應大医学研究科博士課程修了、医学博士。精神科病院勤務。英国ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンなどで認識的信頼の研究。著書に『愛着トラウマケアガイド 共感と承認を超えて』(金剛出版)



和氣大成 (聖学院大学准教授)

米国ボストンカレッジ大学院でカウンセリング心理学を専攻。英国オックスフォード大学にて「医学的対処可能性のない疾患発症リスクを知る権利」について在外研究。公認心理師、臨床心理士。

お申込みの流れ*

Googleフォーム
で申込み



または
こちらをクリック
で申し込み

1

振込
口座番号
お知らせ

2

参加費
お振込

3

当日、受付で
参加証・領収書
お渡し

*お振込が確認でき次第、申込完了。2月20日(金)申込締め切り。応募者多数の場合は事前に閉め切る場合もございます。

本企画の内容をより深く理解するため、松嶋健著『Psycho Nautica』(世界思想社)を事前に読むことを推奨します



Love God and Serve His People

聖学院大学

一人を愛し、一人を育む。